

広島県立三次看護専門学校 授業要項 (予定)

科目	在宅看護技術		担当講師名	専任教員
学科名	学 年	時 間 数	授業の種類	開 始 時 期
第二看護学科	2 年	30	講義	令和5年前期

科目目標・単元目標

在宅で療養する人の特性と在宅看護の目標を踏まえて、在宅看護過程の展開ができる基礎的技術を習得する。
在宅で療養する人に対する援助の考え方を理解して、在宅看護の技術を習得する。

授業内容

【講義】

- 1 在宅看護の対象である在宅療養者やその家族の生活の視点からアセスメントをし、問題解決を図るための在宅看護過程の展開の方法を理解する。
- 2 療養者と家族の健康保持とQOLの維持・向上を目指すために必要な基本技術と日常生活援助、医療処置技術を理解する。
- 3 療養者と家族がライフスタイルを崩さず、自分らしく生きていけるようにセルフケア能力を高める方法を理解する。

【演習・校内実習】

看護サマリーの作成、在宅での日常生活援助技術、医療処置技術

授 業 内 容	回数	主題	副題	回数	主題	副題
	1	I 在宅看護過程 の展開	1 在宅看護における看護過程の 特徴 2 在宅看護過程の構成要素	10	IV 在宅療養を支 える医療技術	1 在宅看護でのフィジカル アセスメント 2 在宅での健康管理 3 在宅での安全管理
	2		3 在宅看護過程の展開 1) 情報収集項目 2) アセスメントのポイント ①健康状態 ②ADL ③介護内容・介護力・介護負担 ④家屋構造 ⑤経済状態 ⑥家事 ⑦社会交流 (社会サポート) ⑧ストレス	11	V 在宅看護技術 の実際① (演習)	1 在宅での日常生活援助技術の実際
	3			12		
	4		3) 在宅における看護問題の特定 4) 解決目標の設定 (長期・短期) 5) 解決策の立案 (情報収集計画, ケア計画)	13	VI 在宅看護技術 の実際② (GW)	1 在宅における医療管理を必要とする 人の看護 (演習)
	5		4 在宅看護の実施評価 5 在宅看護実施における訪問時 のマナー, 面接技術 6 在宅看護で使用する記録類	14		
	6	II 継続看護	1 他職種との連携 2 医療機関と訪問看護の連携 3 看護サマリーの活用	15		(発表)
	7		4 看護サマリーの作成の実際		テキスト 地域療養を支えるケア メディカ出版 写真でわかる訪問看護 インターメディカ	
	8	III 在宅療養 生活を支える 看護技術	1 日常生活援助の考え方 1) 食生活 2) 排泄 3) 移動・移乗 4) 療養環境の整備 ・居住環境を整えるための社会 資源活用		成績評価の方法 ・筆記試験 (70) ・校内実習レポート (10) ・看護サマリー (10) ・課題提出 (10) ・講義出席状況, グループワーク参加状況	
9						

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	在宅援助論演習			担当講師	専任教員、外部講師		
学科名	学 年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期		
第二看護学科	2年		1 (30)	演習	令和5後期		
科目目標							
1 訪問看護に必要な療養者の情報を理解できる。 2 在宅療養者および家族の問題や課題を統合的にアセスメントできる。 3 在宅療養者および家族の状態に応じた、自立と生活の質の向上のための看護計画を立案する。 4 訪問看護での看護計画、情報収集計画を実施、評価し、療養者・家族の状態に応じた看護の方法を習得する。 5 訪問看護の礼儀・マナーが身につく。							
授業概要							
○演習：在宅看護過程の展開，ロールプレイング ○在宅療養者のQOLを尊重した看護 ○校内実習：訪問看護のマナーチェック							
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容	
1	2	I 訪問看護のマナー 玄関先での挨拶，畳の部屋でのマナーについて		10	2	III 継続支援 1) 継続支援の方法 サマリーの書き方と実際	
2	2	II 在宅看護と看護過程の展開① 2 日常生活動作に障害のある人と家族の看護 1) 情報整理・分析・判断 ①健康状態 ②ADL ③介護力 ④家屋構造・環境 ⑤経済状態 ⑥家事 ⑦社会交流 ⑧ストレス		11	2	IV 状態に応じた援助 1. 在宅における生活リハビリと環境整備 1) 障害や生活・健康状態に応じたリハビリテーション	
3	3			12	2	2) 環境整備に活用できる社会資源 3) 抱えない看護と介護	
4	2			13	2	V 事例にみる在宅看護 1) 医療依存度の高い療養者へのQOLを尊重した看護 小児の事例をもとに	
5	2	2) 看護上の問題点の明確化 ①療養者と家族の全体像の把握 ②療養者と家族との問題の共有 3) 優先順位の判断		14	2	2) 在宅での終末期の療養者とその家族の看護 退院支援，看取りとグリーフケア	
6	2	4) 計画立案 ①目標の設定（長期，短期） ②ケア計画 ③情報収集計画		15	2	3) ALS療養者とその家族の看護	
7	2	5) 計画の立案・実施 ロールプレイングの実施準備		【テキスト・参考書】 1) ナーシング・グラフィカ21 在宅看護論「地域療養を支えるケア」：櫻井尚子他編，MCメディア出版 2) 写真でわかる訪問看護：押川眞喜子監修，インターメディアカ 3) 医療福祉総合ガイドブック			
8	2	【ロールプレイングの実施】 ①ケア計画の実施 ②情報収集計画の実施 ※コミュニケーション技術 ※実践のスペースの調整		【成績評価の方法】 ・筆記試験 ・レポート内容、マナーチェック ・講義出席状況・グループワーク参加状況			
9	2	6) 評価 (GW・ロールプレイまとめ) ①目標の達成度と，療養・家族の満足度 ②看護の内容，介入方法の振り返り					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目		看護システム		担当講師	専任教員	
学科名	学年	クラス	単位 (時間数)	授業の種類	実施時期	
第二看護学科	2年		1(30)	講義	令和5年後期	
科目目標 看護を組織的に展開し発展させるために必要な基礎的知識を学ぶ						
授業概要 I 病院における看護組織と役割・機能について理解する II 看護の制度と看護行政について理解する III 日本の医療保険制度の目的・機能について理解する IV 災害看護の基本的役割と機能を理解する V 海外での看護や国際看護について理解する VI 重症患者の集中ケアから、医療チームの中での看護の基本的役割について理解する						
1	2	I 看護管理(1) 看護管理とは 病院組織の特徴 看護組織の構造と職務		11	2	IV 災害看護 災害の定義と種類 災害看護とは 災害サイクルと災害看護活動
2	2	I 看護管理(2) 目標管理, 看護基準と看護手順 人事管理・労務管理		12	2	IV 災害看護 トリアージとは 災害看護と法律 災害とこころのケア
3	2	I 看護管理(3) 業務管理 職員教育(キャリア開発) チーム医療		13	2	IV 災害看護 災害看護の実際
4	2	I 看護管理の実際		14	2	V 国際看護
5	2	II 看護制度・看護行政		15	2	VI 集中ケア
6	2	III 医療経済論(1) 国民医療費の動向		【テキスト・参考書】 ・看護管理 看護研究 看護制度 メジカルフレンド社 ・看護学概論 メジカルフレンド社 ・災害看護学・国際看護学 医学書院		
7	2	III 医療経済論(2) 医療費の経済分析				
8	2	III 医療経済論(3) 日本の医療保険制度の仕組み				
9	2	III 医療経済論(4) 診療報酬制度				
10	2	III 医療経済論(5) 医療の標準化と質の保証				
【成績評価の方法】 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> レポート試験 <input type="checkbox"/> 実技試験						

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	医療・看護の安全		担当講師	専任教員
学科名	学年	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第二看護学科	2年	1(15)	講義	令和5年前期
科目目標 医療・看護を安全に提供するために必要な理論と方法を習得する。				
授業概要 医療・看護の安全にまつわる基本的な知識をさまざまな側面を切り口にして学ぶ。 臨床現場において実際に安全行動がとれるように、現場に潜む危険を感知し改善するトレーニングや安全につながるコミュニケーション方法を体験を通して学ぶ。				
回数	時間数	授業内容		
1	2	1 医療安全にかかわる基本的な知識の理解 1) 医療安全とは 2) 患者・医療の安全 3) 看護実践の特性と医療安全 4) 医療事故の区分 5) リスクマネジメント 6) ヒューマンエラー		
2	2	2 ヒューマンエラーの理解と対策 1) エラーと人間の特性 2) エラーの防止対策 3) 医療事故防止とメタ認知		
3	2	3 組織的な安全対策 1) 国の医療安全対策 2) 組織の医療安全対策 3) 看護職の法的責任と看護職賠償責任保険		
4	2	4 医療事故発生時の対応と医療安全コミュニケーション 1) 医療事故後の対応 2) 医療安全のためのコミュニケーション I-SBAR-Cの練習		
5	2	5 医療安全とコミュニケーション 2 1) コミュニケーションエラーの回復 2) アサーティブなコミュニケーション		
6	2	6 医療安全における予防対策 1) 質が高い安全な医療・看護の提供 2) 危険回避の方法 3) 危険予知訓練		
7	2	7 危険予知訓練 1) 危険場面の発見・改善		
8	1	8 与薬に関する事故防止 1) 起こりやすい事故を防ぐための知識と計算		
【テキスト・参考書】 新看護学全書 看護実践マネジメント・医療安全, メヂカルフレンド社 医療安全ワークブック 医学書院			【成績評価の方法】 ■ 筆記試験	

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	看護技術の統合			担当講師	専任教員	
学科名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期	
第二看護学科	2年		1 (30)	演習	令和5年前期	
科目目標						
<p>これまで学んだ看護の知識・技術を統合し、看護実践の場で発展させるための基礎的能力を養う。 (単元目標)</p> <p>1-1. 複数の患者の看護を実施する際の優先順位の決定方法、看護業務の組み立てについて理解できる。 1-2. 看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップの役割が理解できる。 2-1. 患者の状態が急変した際に必要な看護技術が、状況判断を伴いながら統合的に実施できる。 2-2. 患者の状態が急変した際の冷静で迅速、それでいて暖かい態度の必要性がわかる。 2-3. 自分にできていること、できていないことを客観的に見つけ、今後の自己研鑽の方向がわかる 3. 集中ケアにおける対象を理解し、看護者の役割が理解できる</p>						
授業概要						
<p>統合分野では、専門分野Ⅰ・Ⅱで学習した看護の知識・技術を統合し、対象を総合的に捉え、一人ひとりの対象のニーズに合った看護を提供できる基礎的能力を養う必要がある。その中でも本単元では、時間配分と優先性を考慮した看護、臨床現場における総合的な状況把握と判断を伴った看護について習得することをねらいとする。</p>						
回数	時間数	授 業 内 容		回数	時間数	授 業 内 容
1	2	グループワーク ・複数の患者を受け持つ場合の優先順位の決定方法と看護業務の組み立て		10	2	個人ワーク 課題 ・現在患者の体に起きていること、今後の経過を予測した看護の計画
2	2	演習 グループワーク：ステップ① 複数患者の援助計画立案シミュレーション * 予定の業務を抽出し、優先順位を考えた業務の組み立て		11	2	演習 実施 ・急変時等その状況に応じた看護の実施 * その状況における患者への対応やチームメンバーとしての対応
3	2	ステップ①発表・質疑応答・まとめ		12	2	演習 グループワーク ・急変時等その状況に応じた看護の実施後の振り返り V T Rでの確認
4	2	演習 グループワーク：ステップ② ・複数患者の援助計画立案シミュレーション(ステップ②事例提示) * 予定外の入院や状態が悪化した状況での業務の組み立ての修正		13	2	
5	2			14	2	演習 グループワーク ・急変などその状況に応じた看護の判断と看護技術の統合 ディスカッションと資料作り
6	2	ステップ②発表・質疑応答・まとめ 「複数の患者を受け持つ看護業務の組み立て」のまとめ		15	2	演習 発表
7	2	講義 ・看護記録とは ・SOAP ・日勤と夜勤の違い		【テキスト・参考書】 ・新体系看護学全書37 看護実践マネジメント医療安全		
8	2	講義 集中ケア認定看護師 1 集中ケアとは 2 集中ケアを必要とする患者の特徴と看護の役割				
9	2	講義 ・急変等状況に応じた思考と判断 ・オリエンテーション ・事前準備の検討計画		【成績評価の方法】 ■ 課題・レポート ■ 技術評価 ■ 演習の参加状況		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	ケーススタディ		担当講師	専任教員
学科名	学年	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第二看護学科	2年	1(30)	演習	令和5年前期

科目目標

これまで学んだ理論や技術を統合して自己の看護実践を振り返ることにより、研究的手法を用いた看護を追究する方法を学ぶ。

1. ケーススタディを通して、実践した看護を科学的な思考で振り返ることができる。
2. 他者の行ったケーススタディを客観的に評価することができる。
3. 他者の行った看護を共有し、学びを得ることができる。
4. ケーススタディをまとめる過程、発表や質疑応答を通して研究的態度を養う。

授業概要

学生が2年次に実習で受け持った患者の中から1事例を選定し、ケーススタディとして論文を作成し発表する。論文作成の過程で教員の指導のもとに実践した看護を科学的な思考で振り返り、ケーススタディの研究方法に沿って自己の看護の意味づけを行い、自分の言葉で執筆し発表する。また、発表への参加・評価を通して、他者の論文を客観的に読み込み、質疑応答を通して看護を深める機会とする。ケーススタディへの取り組み、発表を通して研究に対する基礎的な能力と態度を養う。

回数	時間数	授業内容	回数	時間数	授業内容
1	2	ケーススタディ オリエンテーション	12	2	ケーススタディに関する学習
2	2	ケーススタディの発表1名	13	2	ケーススタディに関する学習
3	2	ケーススタディの発表1名	14	2	ケーススタディに関する学習
4	2	ケーススタディの発表1名	15	2	ケーススタディに関する学習
5	2	ケーススタディの発表1名			
6	2	ケーススタディの発表1名			
7	2	ケーススタディの発表1名			
8	2	ケーススタディの発表1名			
9	2	ケーススタディの発表1名			
10	2	ケーススタディの発表1名	【テキスト】 ケーススタディの進め方ガイド(本校作成)		
11	2	ケーススタディの発表1名	【成績評価の方法】 ・ケーススタディ論文作成・発表を評価表に基づいて評価する。		

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科目	地域での療養生活			担当講師	各実習担当教員
学科名	学年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実施時期
第二看護学科	2年	実習G	1 (45)	実習	令和5年後期
科目目標 在宅療養をする人及び家族や地域、在宅療養を支える支援システムを理解し、在宅看護を実践する基礎的能力を養う。 健康障害を持ちながら地域で生活している人とその生活状況が理解でき、家庭や施設で必要とされる看護がわかる。					
授業概要 1. 3日間は、家庭での生活を知るために以前病棟実習で受け持った患者の自宅に訪問して学ぶ。 2. 施設での生活を知るために障害者療養施設に3日間行き、施設での看護の実際を学ぶ。					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	7.5	<家庭での生活> 在宅で療養している対象とその家族の理解を深め、訪問看護過程の展開が出来る。			
2	7.5	1 在宅療養をする対象と家族の理解 2 健康状況に影響する生活環境や生活状況 3 健康障害に応じた生活の仕方 4 病棟生活から家庭生活への継続 5 訪問看護計画と実践			
3	7.5				
4	7.5	<施設での生活> 施設で生活している人を理解し、そこで行われている看護の方法がわかる。			
5	7.5	1 施設を生活の場としている人の理解 2 施設で生活している人の看護の実際 3 生活の場としての環境調整			
6	7.5				
【成績評価の方法】 実習評価表に基づいて評価を行う。					

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目	訪問看護の実際			担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	ク ラ ス	単 位 (時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	2年	実習G	1 (45)	実習	令和5年後期

科目目標
 在宅療養をする人及び家族や地域，在宅療養を支える支援システムを理解し，在宅看護を実践する基礎的能力を養う。
 在宅で療養している対象とその家族の生活の状況が理解できる。

授業概要
 訪問看護ステーションに6日間行き、在宅で療養している人とその家族の理解や訪問看護の実際を学ぶ。

回数	時間数	授 業 内 容
1	7.5	1 在宅療養をする対象と家族の理解 2 地域の在宅支援システム 3 訪問看護機関の機能の理解 4 訪問看護の実践
2	7.5	
3	7.5	
4	7.5	
5	7.5	
6	7.5	

【成績評価の方法】
 実習評価表に基づいて評価を行う。

三次看護専門学校 授業要項 実務経験のある教員等による授業科目

科 目		総合実習		担当講師	各実習担当教員
学 科 名	学 年	クラス	単位(時間数)	授業の種類	実 施 時 期
第二看護学科	2年	実習G	2(90)	実習	令和5年後期
科目目標 複数の患者に複数の看護師が協働しながら組織的に看護を行うために必要な能力を養う。					
授業概要 病棟へ実習に行き、学生チームを組み、複数の受け持ち患者の看護実践をとおして学ぶ。また、看護管理の実際や夜勤帯での看護も学ぶ。					
回数	時間数	授 業 内 容			
1	7.5	(1)協働しながらの複数患者への看護 (2)看護の実践場面で看護業務の組み立て ア 優先順位の決定 イ 看護師間の協働 ウ 勤務帯における看護師の活動 エ 事務処理 (3)病棟師長(科長)への報告 (4)リーダー看護師の役割 ア 業務分配試進行状況の把握 イ チーム内の患者の看護の総括 ウ チームメンバーの役割分担と総括 エ 師長(科長)への報告 オ 医師への報告と指示受け (5)スタッフ看護師としての役割 (6)多職種・他部門との連携			
2	7.5				
3	7.5				
4	7.5				
5	7.5				
6	7.5				
7	7.5				
8	7.5				
9	7.5				
10	7.5				
11	7.5				
12	7.5				
【成績評価の方法】 実習評価表に基づいて評価を行う。					